

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年1月7日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部 国際日本学科 (学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2023年12月12日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	オーストラリア
留学先大学	西シドニー大学(日本語名) Western Sydney University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	English/English
留学期間	2023年2月～2023年12月
留学先大学で在籍した学年	年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称): <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 3 月上旬～6 月下旬 2 学期: 7 月下旬～11 月下旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	約 50,000 人
創立年	1989 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (AU\$)	日本円	備考
授業料	0	0円	交換留学のため明治大学への学費のみ
宿舍費	\$12000	約 1,200,000円	到着日に関わらず、1-12月まで支払い
食費	\$3000	約 300,000円	自炊を中心とし、外食を週2回程度
図書費	0	0円	
学用品費	0	0円	
携帯・インターネット費	\$180	約 18,000円	
現地交通費	0	0円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	0	0円	
被服費	\$300	約 30,000円	
医療費	0	0円	海外旅行保険が適用される
保険費	\$1000	約 100,000円	形態:
渡航旅費	\$2500	約 250,000円	日本円で購入
ビザ申請費	\$650	約 65,000円	
雑費	0	0円	
その他	\$2500	約 250,000円	国内旅行費
その他		円	
合計	\$22100	約 2,210,000円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:東京一羽田 目的地:シドニー 経由地:	
復路 出発地:シドニー 目的地:東京一羽田 経由地:	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:JAL 料金:約 13万円 復路 航空会社:ANA 料金:約 12万円 ∴合計:約 25万円	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:各航空会社の公式サイト)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前:Western Sydney University Village) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 6 人)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

大学の案内から寮を調べた。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

ルームメイトとしっかりとコミュニケーションをとることが出来れば、快適な寮生活を送れると思う。寮では定期的にイベントが行われているので、積極的に参加することで交友関係を広げることが出来る。航空券に関しては、正確な帰国日を決定することが渡航前には難しかったため、往路と復路を別で購入したが、ある程度目安をつけることが出来るのであれば、往復で購入した方がコストを抑えられるためおすすめである。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:日本語対応の現地の病院)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

在留届を提出し、日本国大使館よりメールで情報を得ていた。貴重品の管理や危機管理をしっかりと行っていたため、盗難等にあったことはない。万が一に備え、クレジットカードを紛失した場合などの連絡先は確認しておいた方がよい。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話に関しては、amaysim の esim を利用した。コストを抑えられた上に、繋がりが問題なく amaysim を利用して良かった。寮や大学には wi-fi があり、インターネットの使用に困ることはなかった。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的にデビットカードを使用していた。割り勘などをする時に、送金を行える口座があった方が便利であったため現地で銀行口座を開けた。また、日本のクレジットカードをオンライン決済などで利用すると本人認証のために、渡航前に日本で使用していた電話番号に認証コードが送られてしまい使用できないことがあったので、渡航前に認証コードが送られる番号などを確認しておくことがよい。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

常備薬、コスメ(現地で調達すると基本的に値段が高い上、肌に合わないなどのトラブルもあるため)
変圧器(2 個程度持っていくと便利)

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
60 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Understanding Society	社会学
科目設置学部・研究科	School of Social Sciences
履修期間	Autumn 2023
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 0.5 回
担当教授	Rachel Sharples
授業内容	社会学の概念や理論について学び、それらが社会においてどのように関係しているのかを学ぶ
試験・課題など	Weekly Workbook, Essay, Case Study
感想を自由記入	社会学の概念や理論は理解するのが難しい上、使われる英語が専門的で難しい部分があった。ワークブックは時間はかかるが、文法の間違えがないかなどを確認してから提出できるため良い面もあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Diversity, Language and Culture	多様性と言語と文化
科目設置学部・研究科	School of Humanities and Communication Arts
履修期間	Autumn 2023
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 1 回
担当教授	Dr Quah Ee Ling
授業内容	文化・言語的に多様な社会を理解するために、文化の意味や先住民族について学ぶ
試験・課題など	Portfolio, Essay
感想を自由記入	多文化共生の国として知られるオーストラリアであるため、内容がとても深いものとなっていた。オーストラリアの先住民族についても学ぶことが出来たので良かった。課題は、さまざまな社会の面について考える必要があり、まとめることがとても大変であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Global Trends in Tourism and Events	観光とイベントにおける世界的トレンド
科目設置学部・研究科	School of Social Sciences
履修期間	Autumn 2023
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 1 回
担当教授	Julie Jie Wen
授業内容	観光、イベント、遺産について学ぶ上で必要な基礎知識についてを学ぶ
試験・課題など	Quiz, Report, End-of-Term Exam
感想を自由記入	先生がとても明るく面白い授業を行ってくれた。内容もとても興味深いものであったため、受講して良かった講義の 1 つである。授業を受けた上での質問点や課題に関する不明点がある場合も、先生に相談しやすい環境であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Sport Entertainment		スポーツエンターテイメント	
科目設置学部・研究科	School of Business		
履修期間	Spring 2023		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Jess Richards		
授業内容	スポーツ体験とスポーツ・消費者・メディアの関係性について学ぶ		
試験・課題など	Case Study, Portfolio, Essay (Group)		
感想を自由記入	スポーツとメディアの関係がどのように変化してきたのか、私たちは消費者としてどのように体験しているのかを学ぶことが出来て、面白かった。ディスカッションパートが多いということ、そして現地生徒がほとんどであったため、難しいと感じる部分もあった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Sporte History in Global Perspective		世界的視点からみるスポーツの歴史	
科目設置学部・研究科	School of Humanities and Communication Arts		
履修期間	Spring 2023		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Brett Bennett		
授業内容	スポーツの歴史についてを様々な国とスポーツに着目して学ぶ		
試験・課題など	Quizzes, Reflection, Essay		
感想を自由記入	教授が明治大学と関りのある方であったため、授業についていけているか、何か不安なことはないかなどと気にかけてくださった。オーストラリアで人気のあるスポーツ(ラグビーやクリケット)についても知識を得ることが出来たのでとても良かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Tourism and Festivals in Society	社会における観光とフェスティバル
科目設置学部・研究科	School of Social Sciences
履修期間	Spring 2023
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Felicity Picken
授業内容	観光とイベントを文化・社会的現象として捉え、それらに影響を与える要素について学ぶ
試験・課題など	Quiz, Essay, Report
感想を自由記入	週ごとに各国のイベントがテーマとして取り上げられ、そのイベントを通して、観光やイベントを学ぶ上で必要な視点を得ることが出来た。様々な国のイベントやコンセプトについて知ることができ、とても興味深い授業であった。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	IELTS の勉強
	4月～7月	IELTS 受験
	8月～9月	
	10月～12月	渡航に向けた準備(航空券、ビザ取得、寮の確保など)
留学開始年	1月～3月	渡航
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	帰国
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

私は入学当初、大学 2 年生の秋学期からの留学を考えていた。しかし、新型コロナウイルス流行の影響を受け渡航に対する不安があったため、大学 3 年生春学期からの留学に予定を変更した。オーストラリアの協定留学に出願するには、秋学期出発よりも高い英語能力が求められる。1 年生の必修で TOEFL を受験した際、自分には合わないと感じていたため、IELTS で出願条件をと満たすことを目標に勉強を始めた。TOEFL と IELTS は、人によって合う合わないがあると思うので、自分に合うテスト形式の試験を選び、対策していくことが大切だと思う。英語に関しては、明治大学が推奨しているレアジョブ英会話に渡航前まで取り組んだ。レアジョブ英会話を通して、英語を喋る機会を作ることが出来たため、オンライン英会話に取り組んで良かった。留学後に、日常英会話で使われるフレーズなどを知って入れれば良かったと感じる場面が多くあったため、海外ドラマや映画から学んでおくことをおすすめする。オーストラリアは気候が温暖である上に、多文化共生社会であるため、留学する環境として最適であったと感じる。留学先を決める際、大学のレベルを重要視してしまいがちだが、自分の興味関心のある分野の講義の充実度やキャンパスの雰囲気について調べ、自分に適した大学を選ぶことが大切である。私の場合は、明治大学では中野キャンパスに通っているため、オーストラリアでは全く異なる雰囲気のキャンパスに通いたいという思いと、興味関心のある講義が多く開講されている大学を選びたいという思いがあり、西シドニー大学を選んだ。留学当初は、現地に友達もいなく、生活にまつわるすべてを自分で行わなければならないことから、大変なことも多かった。時には、自分の伝えたいことが伝えられなかったり、上手く伝わらないこともあった。しかし、自ら積極的に行動を起こさなければ何も変わらないということに気づき、積極的にコミュニケーションをとるようにしてからは交友関係を広げることができ、生涯の友を作ることが出来た。日本では、お互いに察することや空気を読むということが当たり前になっているが、海外では全く通用しない。コミュニケーションだけでなく、意見や考えがある場合は自分から発信していかなければならない。始めは、意見を伝えることに対して、緊張や不安もあったが、この困難を乗り越える過程を通して、自分を成長させることが出来た。留学前は、約 10 カ月という長期の留学に対して期待と不安が入り混じっていた。10 カ月という期間を長く感じるかもしれないが、実際に過ごしてみるとあっという間に過ぎていく。だからこそ、留学を通して達成したいことを明確にし、一日一日を大切に過ごしてほしい。困難があるのは当たり前、留学生活を決めるのは自分自身という考えが、私が留学生生活を充実させることが出来た理由の 1 つだと感じている。ぜひ、留学に挑戦して、貴重な経験を学生時代に得てください。